



オリンピックも射程圏内に！



射撃部
岩田聖子さん
(社会学科3年)

昨年の全日本学生ライフル射撃選手権(女子3姿勢60発)で見事優勝し、JOC(日本オリンピック協会)から大学生唯一の強化指定選手に選ばれた岩田聖子さん。2004年アテネ五輪出場に大きな期待がかかる逸材だ。

ライフル射撃は、過去の五輪で日本のメダル獲得の実績もある伝統的な競技。「スモールボアライフル(実弾)」「エアライフル(空気銃)」「ピストル」の3つが主な競技で、このうち岩田さんがやっているのは「スモールボア」と「エア」。「スモールボア」では「伏射」「立射」「膝射」

の3姿勢で50メートル先の標的に各20発を撃ち、合計点を競う。5キロもあるという銃を担ぎ、体力と集中力が要求されるハードなスポーツだ。

岩田さんがライフル射撃を始めたのは高校(宮城・仙台育英)の体育の授業で先生に見出されたのがきっかけだった。とはいえ、「最初はいいや、なんとなくやっていた」とはにかみながら打ち明ける。「今は五輪などの目標もあり、楽しくやっていますよ」と明るく笑った。

ナショナルチーム入りを果たした昨シーズンはワールドカップ(韓国)や世界選手権(フィンランド)を転戦し、国際舞台での経験を積んできた。普段はナショナルチームの活動が中心だが、朝霞キャンパスにある射撃部の練習場でも週に3~4回撃っている。「精神的なスポーツでもあるのでメンタルトレーニングも欠かせません」。

JOCの強化選手に選ばれたことでアテネ五輪も視野に入ってきたのでは?との問いかけには、「周りの人がいうので意識しはじめましたが、オリンピックは目標のひとつであって、全てではありません。

そこで燃え尽きてしまうのも嫌だし...」とあくまで控えめだ。「まずは出場権を得られるようにがんばりたいです」と気を引き締めた。

ライフルの魅力は、「最後の勝ったときの瞬間ですね。何よりも『自分に勝った!』というのが最高です。一緒にがんばっている仲間がいるのも心強いですね」。

大学選手権などの出場は4年間と決められている。通信教育課程から学部の1年生に編入した岩田さんは、今後ナショナルチームに活動拠点を移す。「自分が満足できるまで競技生活は続けたい。昨日よりも、少しずつ成長していきたいです」と目を輝かせた。

高校時代に才能を見出され、着実に力をつけてきた岩田さん。持ち前の抜群の射撃センスに技術が加われば、オリンピック出場、さらにはメダルも夢ではない。インタビュー中、こちらの目を真っすぐに見つめ、ひとつひとつ言葉を選んで、ていねいに答えてくれた彼女の笑顔が、とてもすがすがしかった。

サークル・ウォッチング

アナウンス研究会 (TAK)

「アーエーイーウーエーオーアーオー」。朝霞キャンパスの小教室いっぱい力強い声が響き渡る。アナウンス研究会(アナ研)の活動は発声練習から始まる。みな表情は真剣そのもの。見ているこちらまで背筋をピンと伸ばしたくなる。

一方、同キャンパスのコミュニティセンターにあるアナ研部室内の放送室では「ハイ、本番いきまーす」「OK!」。ディレクター役の会員がミキサー担当者に指示を出していた。放送ブースは本格的なミキサー機器を備え、本物の放送局さながら。パーソナリティとゲスト役を務めるブースの中の2人はテーマにあわせてトークの練習中だ。

今年で創立39周年を迎えた同研究

会の会員数は40人。練習は月・木曜の週2回、朝霞キャンパスで18時半から20時まで、3つの班に分かれて行っている。

主な活動に朝霞文化祭、オープンキャンパスでのアナウンスがある。また、研究会内で春秋に番組発表会を、対外的には中央大学、法政大学など他の11大学とジョイントで年に1度の番組発表会を行うなど、番組制作のレベル向上に努めている。

アナ研は現在埼玉県西部のコミュニティFM(77.7MHz「FMちゃっぴー」)で3週間に一度、水曜日23時から60分番組を放送中。「MIX JUICE」という番組タイトルには「ひとりひとりの会員の個性がにじみでるもの」という意味が込められている。内容はラジオドラマやトーク番組などだ。

みなさんアナウンサー志望かと思いきや、「ここ数年は本気でアナウンサーを目指している人は減少傾向にあります」と語る会長の小高健介さん

(法律学科3年)。

会員の当初の入会動機は「マスコミに憧れて」「映画『ラヂオの時間』を観て」...など様々だが、活動を続けるうちに、みんなでひとつの番組を作っていく「ものづくり」の面白さに目覚めていくという。

「いい加減にやっているといい加減なものしかできません。一生懸命やっていいものを作って、聴いて下さる人に感動を与えたいですね」と今後の番組制作に向けて小高さんは熱く語ってくれた。

